

令和3年度「尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業」活動報告書

1. 教育・研究活動名 「SDG s こどもかるた」
2. 申請団体 兵庫県立尼崎北高等学校
3. 活動グループ名 72期生環境類型・73期生環境類型
4. 教育・研究活動目的・目標

SDG s の課題は、認知度の低さ、難しさ、高すぎる目標、絵空事に思えることなどがあります。

ただ、「誰一人取り残さない」という精神は福祉の根幹であり、SDG s について、市民の方々と共に考え、共に学ぶことを目指したいと考えています。

本校は「地球・地域とつながる尼北」をスローガンとし、環境類型クラスはその中心として、地球環境、人間環境を広く学び、地域社会との交流を深める活動を続けています。

令和3年度、本校は創立100周年を迎え、それを記念して環境類型クラスで何かできることはなにかと考え、SDG s を広めるための「かるた」の製作を思いつきました。調べてみると、すでにいくつかの団体が製品化していますが、小学生に完全にフィットする「こども目線」のものが作れないかと考え、SDG s について徹底的に研究し、小学生や市民の方々、こども食堂、環境オープンカレッジの意見をひとつにまとめたかるたを作りたいと考えました。

このため、エコあまフェスタ、本校文化祭、尼崎市民まつりなどのイベントで、本校環境類型生徒と様々な世代の市民の方々の意見交換を行い、小学生や小学校の先生の意見も聞き、何度もフィードバックを重ねた上で原稿を作り、商用印刷し、市民団体や小学校で使っていただくことを考えました。

また、コロナ禍における「かるた」を考え、密にならない遊び方も考えることとしました。

5. 想定される活動成果

(1) SDG s の理解

小学生に伝えるという目標を持つことで、大切ではあるが把握しにくいSDG s について、調べ学習して行く中で自分たちの理解を深めてゆきます。

(2) メッセージの選択

SDG s の17ゴール・169ターゲットという多岐にわたる目標の中から、自分たちから小学生に伝えたいことを取捨選択することで、今、自分たちにできること、すべきことを確認します。

(3) 世代間の意見交換

公開とフィードバックをくり返すことで、自分たち高校生が考えていることと、大人や小学生が考えていることの違いを知ることができればと思います。

(4) 伝えるための方法

かるたというたった44枚の札、基本的に5・7・5という短い句の中に、自分たちが伝えたいことを凝縮し、また、それをわかりやすい絵にすることで、表現力の限界に挑戦します。

(5) 地域での共生

完成したかるたを通じて、大人や小学生と交流し、地域で生活する中で、自分たちが何をすべきかを考え、共生の道を探ってゆきます。

…という崇高な理想を掲げてプロジェクトは発進したのですが…。

6. 活動内容

まずは作ってみるところからはじめ、それを自分たちや市民の皆さんに評価していただくことで、改良してゆくことにします。

様々なイベントで公開することにより、様々な世代の意見を集約し、公開とフィードバックをくり返すことで、地域の意見を「かるた」という形に集約してゆきます。

文章と絵の表現を考え、完成版のかるたの原版をつくります。

原版を元に、地元の印刷屋さんと協力して、商用印刷した完成版を大量生産します。

完成したかるたを、市民団体の皆さんや小学生に配布して使ってもらうことで、市民みんなでSDG s について考えます。

かるたは密になりやすいので、コロナ対策についても考えます。

7. 活動報告

(1) 大型試作品の制作

令和2年度の令和3年1月から令和3年度に変わった4月にかけて制作し、何度か校内に展示しました。

① かるたの句の作成。

「あ」から「わ」までの44枚に、小学生にわかる表現と内容で、基本的に5・7・5という少ない文字数でリズム良くまとめました。

② 絵札の作成

シンプルでわかりやすい絵で、何人かで書いても差が出にくいようにするため、いろいろ試行錯誤した結果、原画は色鉛筆で描くことにしました。

(2) 公開とフィードバック

① 市民の皆さんに公開して、できれば子どもからの意見も集約しようと考えました。

校内で行ったような実物展示以外に、イベントの形態によっては、かるたを接写し、スライドショー形式で液晶モニターに展示することも考えました。

② 展示だけではなく、それを見てくださった方にかるたの「句」の一覧プリントを配り、もっといい案を書いてもらうフィードバックを考えました。

(3) 公開機会の喪失

コロナにより、予定されていたイベントが全て中止となり、発表と公開、フィードバックの機会を失いました。

① 環境類型発表会・・・2021年3月。公開中止。

② エコあまフェスタ・・・6月。中止。

③ 本校文化祭・・・6月。一般公開中止。

④ 尼崎市民まつり・・・10月。中止。

⑤ 創立100周年記念行事・・・10月。公開中止。

⑥ 立花支所イベント・・・2月。中止。

(4) オンライン・エコあまフェスタ2021・・・6月5日(土)

コロナのために中止となったエコあまフェスタですが、令和2年度の完全中止と異なり、令和3年度はZoomによるオンラインで、成良中学、尼崎小田高校、尼崎北高校が活動報告を行いました。

写真左下が、尼崎北高校73期生環境類型全員が出演して発表しているところです。芸術鑑賞部の地域交流活動とともに、72期・73期環境類型のSDGsかるたについて発表しました。

(3) かるたの「句」の改良。

① イベントの中止で、市民の皆さんや小学生の子どもとの交流ができず、公開とフィードバックができなくなりましたが、自分たちでかるたを最適化できないかと考え、初期バージョンのかるたの「句」を最適化するための改良作業に入りました。



(4) データベース化

- ① 闇雲に考えるのでは評価が難しいことから、現在のかるたの句をパソコンの表計算ソフトに入力し、ソート(並び替え)をかけたりしながら評価・検討してゆくことにしました。
- ② また、5・7・5のリズムや音、バランスの大切さを感じたので、江戸、上方、尾張の3つの「いろはかるた」のデータも打ち込んで、検討しました。

地域によって、かるたの句が違うのは新しい発見で、地域性を感じ、SDGsかるたも関西目線にすべきかなと思いました。

(5) 新しい「句」の募集。

- ① イベントの中止で、市民の方々に意見を求めることが難しかったため、まずは校内で、高校生目線だけになりますが新しい句を考えることにしました。
- ② 当初、72期生環境類型中心でプロジェクトが進行していたのですが、73期生環境類型の1年1組の生徒の全面協力が得られたため、夏休みの宿題としてより良い「あ」の句、より良い「い」の句という風に44枚の札の変更案を書きこむプリントを配り、全員から回収しました。
- ③ 写真はそれを整理しているところですが、コロナで許可された部活の生徒以外は放課後即帰宅という期間が長かったため、こういった作業を行うことも困難でした。
- ④ 72期生環境類型も2学期に同じプリントを提出しました。
- ⑤ さらに、なんとか市民の方々との意見交換がしかなかったのも、あまがさき環境オープンカレッジとエコあまフェスタの出展予定者の方々にも、現在の「句」を見ていただき、変更案とアドバイスを記入して提出していただきました。

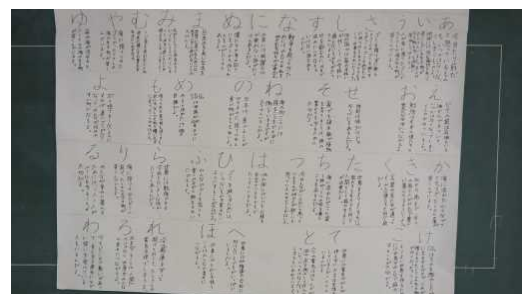
(6) SDGsの研究

- ① かるたを考える中で、大事なことが抜けていることに気づきました。みんな、良い「あ」の句、良い「い」の句をという気持ちで44枚の札を作ろうとしていたということです。
- ② この結果、SDGsの中でも抜けていることが多く、また、「水」についての句がやたら多かったりと、バランスが取れずに穴が多いという事態に陥っていました。
- ③ SDGsかるた制作の目的は、良い句を提供することではなく、SDGsに対するメッセージを伝えること共有することだという原点に立ち返らなければなりません。
- ④ そこで、SDGsの17の目標と169のターゲットもデータベース化し、本当に伝えたいターゲットを選んで44枚の札を作ることがメッセージを伝えることだと気づきました。
- ⑤ SDGsについて調べたことも模造紙にまとめました。これについても、より深く調べて、かるたの付録として資料プリントにする必要があると考えました。
- ⑥ こうして、いろいろと材料は集まり、あまがさき環境オープンカレッジの皆さんの全面協力も得られることとなったのですが、原点に戻ってやり直す必要が出てきたため、今年度中の商用印刷や市民の皆さんへの配布は断念しました。

- 1 あ 安全と 水と食料 ただじゃない
- 2 い 生き物を 守るヒーロー みんなだよ
- 3 う 海の中 増えてくゴミと 減る魚
- 4 え エコバック みんなで持って 石油保護
- 5 お お年寄りから 受け継いでいこう 日本の伝統
- 6 か かけらでも たまっていけば ゴミの山
- 7 き 北・南 全ての国が 平等に
- 8 く 国違えど 人はみな同じ 人なんだよ
- 9 け けむりって CO2から できている
- 10 こ この世界 SDGsで 変えてみよう
- 11 さ さんアール リユース リデュース リサイクル



A		B	
1	SDGs17目標169ターゲット		
2	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。		
3	2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている程度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。		
4	2030年までに、各国定率によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。		
5	各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。		
6	2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。		
7	2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の結果、社会、経済的ショックや災害に脆弱な脆弱性を軽減する。		
8	あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切なかつ予測可能な手段を講じるための、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。		
9	1.b 後発開発途上国のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。		
10	2.1 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。		
11	2.2 2030年までに、飢餓を減らし、すべての人々、特に貧困層及び幼少を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。		
12	2.3 15歳未満の子どもの発育障害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦、授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対応を行う		
2.3	2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び農村加担強化や若農家雇用		



(7) 製品版製作の延期・・・今年度の計画断念。

- ① 市民の方々、特に小学生との交流が全くできず、意見の収集ができなかった。
- ② コロナによる活動制限で、部活以外で放課後残れる期間がほとんど無かった。
- ③ SDGsについて学ぶ中で、かるたの「句」を考える方向の転換が必要となった。→(6)

(8) かるたに対するコロナ対策。

対面でプレーするため、距離を取りたい。

- ① リモートハンドの開発。

生徒がアイデアを出し、試行錯誤で開発しています。

現在、ジョイントマットを切り抜く方式が進行中です。



8. 活動による変化

(1) 学生

活動制限や交流禁止で思った活動ができなかった。

かるたに適した絵の描き方を考えることができた。

描き手による絵のばらつきが出にくいように相談できた。

市民イベントでの展示方法について、スライドショーなどを考えることができた。

かるたのコロナ対策として、こどもたちが密にならないためのリモートハンドを考案した。

SDGsについて調べ学習をする中で、かるたを作る方向性の間違いに気づいた。

「あ」で良い句、「い」で良い句と選んでいたが、ターゲットに偏りや重なりができていることに気づいた。このかるたをこどもたちにSDGsを広めるものにするには、まず、SDGsから特に伝えたい44のターゲットを選び、それを五十音に当てはめるという全く違うアプローチが必要でした。

(2) 市民活動団体の活動者

イベント中止や交流禁止で評価していただくこともできない中、協働団体の環境オープンカレッジの方々には、大人目線でかるたの句を考えて下さり、アドバイスをいただきました。企画には期待をもっていたので、今後どう継続するか考えます。

(3) 指導教員の視点

- ① 想定していた活動成果に対する達成度合い

印刷した製品版が完成できなかったことは申し訳なく思います。印刷段階に進めなかったため、補助金は半額以上返還させて下さい。申しわけありません。

イベントが全て中止になり、市民の方々や小学生と交流できないまま、日々の学校運営上の感染対策、感染者や濃厚接触者の対応、学年閉鎖、活動制限などに追い立てられ、作戦を練り直す余裕がないまま時間が流れてしまいました。

不満足なままで後悔の残るものを見切り発車して印刷してしまうのではなく、責任あるものを完成するために、踏みとどまって、再び練り直す勇気を持つことにしました。

- ② 学生等関わった地域、団体の活動の変化等

校外活動禁止や校内への入場制限で、直接ふれ合うことはほとんど不可能でした。

しかし、プロジェクトの意義に共感していただき、エコあまフェスタに関わる方々、小学校、公民館などから、「完成したら使わせてほしい」という声を多数いただき、生徒達は勇気づけられました。遠く猪名川町の小学校からもエールをいただいています。

- ③ 学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

最初は、かるたを44枚そろえればいいという考えでしたが、目的はSDGsを広めることなので、44枚という制限の中に伝えたいメッセージを詰め込んでゆくかという非常に難しいプロジェクトだと実感するようになり、仕切り直してSDGsについて考え、できれば環境類の後輩、73期や74期生につないでゆければと思うようになりました。

地域に対しては、地域の中で高校生の自分たちにできる役割を考え、大人の人達に見守られる中で、より近い目線から小学生に伝えてゆけるものを探したいと思いました。

- ④ 今後

SDGsの学習という点ではある程度の成果はあったと思うのですが、諸事情から、完成した形を残すことはできませんでした。今後、新入生の74期生環境類の生徒に呼びかけてみて、プロジェクトを続行するか少し時間をかけて考えたいと思います。